

幸手市立幸手小学校 学力保障グランドデザイン



学校の教育目標 自ら学び続ける子
(知) よく考え やりとげる子
(徳) 仲よく 助け合える子
(体) 健康で たくましい子

学校研修課題

吟味した教師の言葉により
「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の創造

本年度の重点

- (1) 「教師10分+子ども35分」の授業の実現
- (2) 幸手スタンダード+「探究」授業の実現
- (3) ICT機器を日常遣いにする授業の実現

目標達成の指針

- ①全国学力・学習状況調査 平均正答率
- ②埼玉県学力・学習状況調査 学力を伸ばした児童の割合
- ③幸手市学力統一調査 平均正答率
- ④確認テスト 1回で90点以上の児童の割合
- ⑤家庭学習 学年目標を達成した児童の割合
- ⑥学力向上強化取組期間 年間実施日数

学校・家庭・地域で学びの場、心のふるさと、誇りを育てる学校づくり

学校の共通行動



❖ 幸手スタンダード授業Ⅴ with GIGAの定着

主体的・対話的で深い学びを実現するための「教師10分+子ども35分」を標準化し、個別最適な学びと協働の学びを一体的に実現する。ICT機器の日常遣いを目指す。

❖ 問題発見・問題解決の探究型授業の定着

問題状況の中で自ら課題を発見し、見通しをもって解決方法を考え、自分らしい問題解決を目指す授業を増やしていき、探究的で協働的な一人学びを実現する。

❖ 家庭・地域と連携した4つの心と力の育成

学校教育目標に集約した学びの力により、継続して4つの心と4つの力を育てる。思考力・創造力・チャレンジ力・思いやる力を協働の学びの中で培い、育てる。

❖ 優しさと厳しさと温かさで認め、励ます教師

優しく接し、高みを求めて厳しく指導し、存在丸ごと受け止める温かさを、組織的な対応で実現し一人一人を支援する。

授業外での取組



❖ スキルタイムで学力も体力も高める

- ・月・水の学力タイムで基礎・基本を徹底反復。
- ・火・木の体力タイムで体力の向上
- ・金の読書タイムで夢と心を育む。
- ・家庭学習の一人学びで学習習慣を定着

❖ 学力向上期間の設定

- ・毎学期に2回の取組期間を設定
- ・県のコバトンプリント、市のワークシート、教材会社のドリルとプリントで個別最適な学びの実現
- ・タブレットでの学び、年30日以上学力向上期間の設定

❖ 辞書引きコンテストで語彙力の向上

- ・国語科部会を中心にコンテストを実施
- ・日常の辞書引きを推奨、タブレットも活用
- ・家庭学習（タブレット、自主学習、宿題）との連携

確かな授業実践



❖ 非認知能力を高める授業づくり

児童一人一人があらゆる学習資源を活用し、問題を解決する一人学びの中で、学び合い・支え合い・高め合う信頼関係を築くことを目指す。人間関係づくりを柱とする。

❖ 吟味された教師の言葉で問い、鍛える

限られた時間の中で教師の言葉を吟味し、子どもが学ぶ時間、練習する時間を最大限に確保した発問、指示、説明等をおこなう。基礎・基本を繰り返し学ぶ時間を確保する。

❖ どの子どもも主体的な存在に引き上げる

情報弱者であり学力に課題のある児童こそ主体的に学び続ける課題や発問、教材を準備する。対話、一人学び、ICTと児童一人一人の強みを生かした探究型授業を目指す。

❖ 子どもも教師も学び続ける

授業公開を多く設定し、相互に子どもの学ぶ姿を見取ること子どもも教師も学び続ける教室を実現する。

家庭・学校間連携



❖ ICTを活用して誰一人取り残さない学び

感染症で出席停止でも元気で会ったり登校できないけれどもオンラインなら、という児童が学びに参加できる体制を常に整えておく。校内にはスペシャルサポートルームを設置して、個別の学びをサポートしていく。

❖ 家庭学習の組織化

授業で一人学びができるように練習することで、家庭で自分で学習できる力を授業で育てていく。
また、宿題で基礎・基本の力を伸ばすとともに、個別の関心に合わせて得意を伸ばす課題を出すなど工夫・改善を図る。

❖ 中学校の3本の矢

幸手中学校との9年間の学びと育ちの連携を図り、中学校3本の矢の一つとして学力向上に向けた共同研修を進める。
また、オンラインでの校区連携やコミュニティ・スクールの情報連携を重ねて3小学校1中学校の一貫した教育を紡いでいく。